



文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書19

Hōjō
鳥取県東伯郡北条町



Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書第5集

Sugaminenagatani Kariyama
管峯長谷遺跡、苧山遺跡

Kitao
北尾23号墳

1996. 3

北条町教育委員会

鳥取県東伯郡北条町

町内遺跡発掘調査報告書第5集

（管峯長谷遺跡、苧山遺跡）

北尾23号墳

1996. 3

北条町教育委員会

序 文

本町は、鳥取県中部地区に位置し、北は日本海に面した砂丘地が広がり、中央は水田、南は丘陵の総面積20.99km²の小さな町です。

本町の丘陵には、茶臼山古墳群、曲古墳群、北尾古墳群、島古墳群、土下古墳群が現在のところ確認されており、住居跡の伴った遺跡も近年の発掘調査により徐々に確認されはじめました。古墳は、狭い丘陵上に存在し総数約600基にものぼり、分布密度からいくと県下一の古墳の宝庫です。

このことは、最近のめざましい開発事業のなかで、文化財のおかれている立場が必ずしも安全とはいえません。この埋蔵文化財を保護していくことは、私たちの責務であることを再確認しているところです。

今回の調査は、北条町曲字苧山、管峯、長谷周辺と北尾字八幡山周辺の農道工事に伴う事前の試掘調査で遺跡の範囲と有無の確認を行なうための調査であり、北条町教育委員会が主体となり、鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課をはじめ地元関係者と緊密な連絡を取り合って協議を進めてまいりました。

調査にあたっては、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより地元作業員、その他調査関係者各位のご理解、ご協力を賜り、ようやく報告書を発刊することになりました。ありがたく感謝申し上げます次第であります。

なお、これを契機といたしまして、本町の文化財保護に対し、一層の努力を重ねてまいり所存であります。今後とも各位のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

1996（平成8）年3月

鳥取県東伯郡北条町教育委員会

教育長 井上 浩

例 言

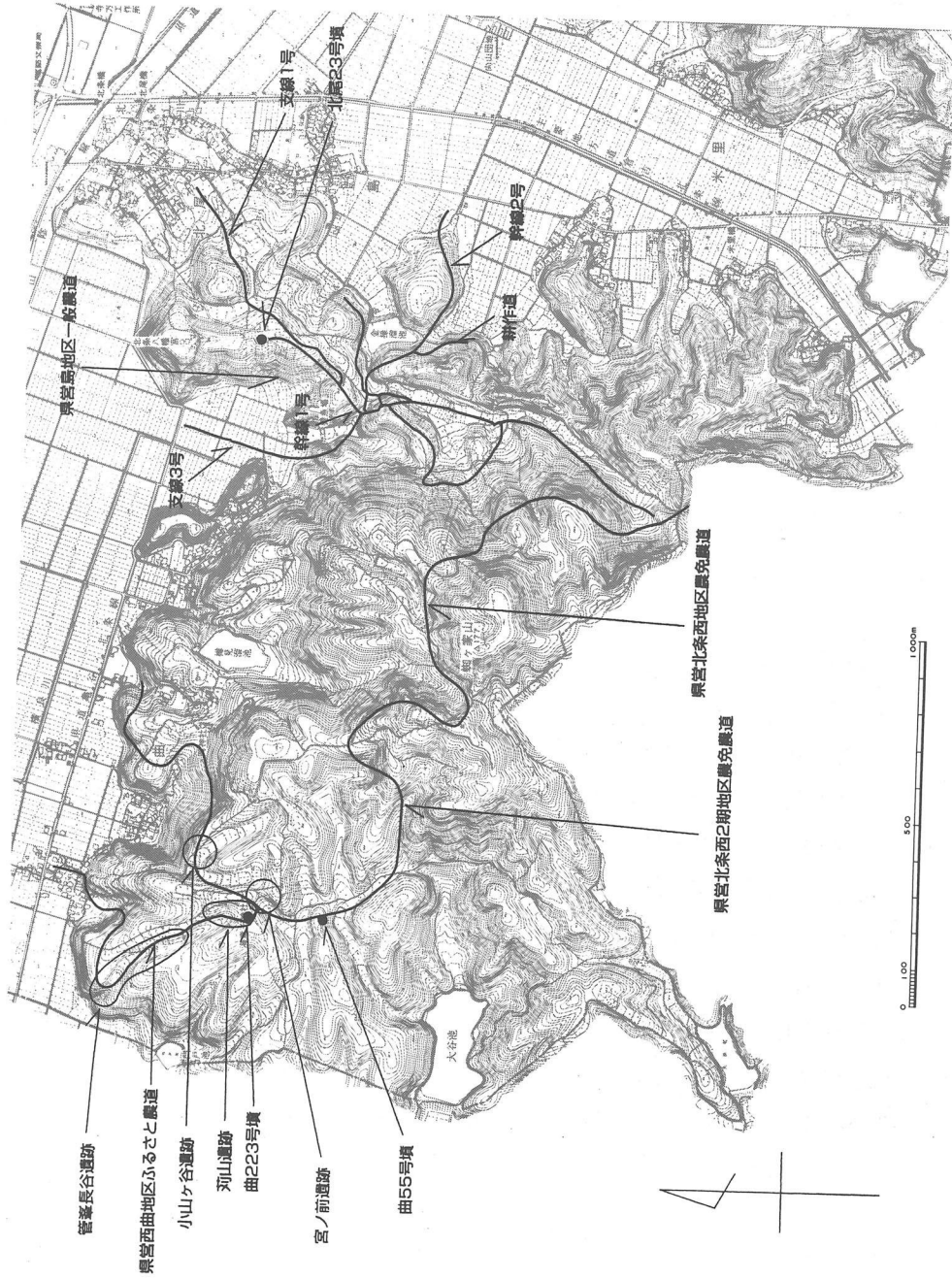
- 1 本報告書は、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が、平成7年度に国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
- 2 今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町曲字管峯、長谷、荊山、天向と同じく北尾字八幡山、釜谷、山田、前防、宮谷、赤松、赤松東平でトレンチによる試掘調査を行い、室内整理作業のうち本報告書を作成した。
- 3 本報告書の報筆、編集は、樋口、中原がそれぞれ行った。
- 4 本報告書の収載した遺構の実測図、図面作成、写真撮影は作業員の協力のもと樋口、中原、福島貴美江、向井康恵が行い、遺物の実測、写真撮影、浄書は、樋口、中原、佐々木直美が行った。
- 5 遺物番号は、本文・挿図・図版にわたって同じ番号を使用した。
- 6 図中の方位は、すべて磁北を示している。
- 7 出土遺物、実測図、写真は、北条町教育委員会が保管している。
- 8 本報告書作成にあたり、松本哲氏にご指導、ご教示いただき、記して感謝します。

本文目次

第1章 調査に至る経過	2
第2章 位置と環境	4
第3章 調査の概要	8
1. 西曲地区試掘調査	8
2. 西曲地区出土遺物一覧表	12
3. 北尾地区試掘調査	15
4. 北尾地区出土遺物一覧表	22
5. 農免予定地試掘調査	22
6. 農免予定地出土遺物一覧表	23
第4章 まとめにかえて	25

挿図目次

挿図1 蜘蛛ヶ家山周辺農道整備事業の各路線計画図	1
挿図2 北条町内遺跡分布図	3
挿図3～5 西曲地区トレンチ配置図①②③	5～7
挿図6・7 西曲地区チレンチ平断面図①②	10・11
挿図8・9 西曲地区出土遺物その1、その2	13・14
挿図10 北尾地区トレンチ平断面図	17
挿図11 北尾地区トレンチ配置図	18・19
挿図12・13 北尾地区出土遺物その1、その2	20・21
挿図14 農免予定地出土遺物	23
挿図15 農免予定地トレンチ配置図	24
・報告書抄録	26



挿図1 蜘蛛ヶ家山周辺農道整備事業の各路線計画図

第1章 調査に至る経過

この調査は、北条町曲、北尾、米里、島周辺の幹線道路整備事業である県営西曲地区ふるさと農道整備事業、県営北条西2期地区農免農道整備事業及び県営島地区一般農道整備事業（幹線1・2・3号、支線1・2・3号含む）の工事に伴い、本工事予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて、工事との調査を図るべく協議を行った結果、「北条町内遺跡分布図」を見て分かるように、周知の遺跡として曲古墳群（228基）、曲第一（岡）遺跡等が存在し、遺跡の集中地域となっているため、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

工事主体である鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課（平成5年度まで耕地課）と北条町教育委員会とで、文化財保護の上にとって工事施工予定時期等と発掘予定箇所や調査体制等を考慮しながら調整を計るよう、お互いに確認し合った。そして鳥取県教育委員会とも協議し、工事予定内の遺跡の有無や分布範囲を確認するため、次のような調査体制で、北条町曲字管峯、長谷、苧山、天向、北尾字八幡山、釜谷、山田、前防、宮谷、赤松、赤松東平を平成7年5月から10月まで、国、県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

平成7年度調査体制

調査主体 北条町教育委員会（担当、教育課社会教育係）

教育長 井上 浩

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査担当 樋口 和夫

中原由香里

文化財保護委員 松本達之・宇田川 宏・西村勝義・日置桑左エ門・前田明範

事務指導 鳥取県教育委員会文化課

事務担当 樋口和夫



插图2 北条町遺跡分布図

1. 曲古墳群	2. 土下古墳群	3. やすみ塚(土下213号墳)
4. 茶臼山古墳群	5. 北尾古墳群	6. 島古墳群
7. 天王山遺跡	8. 北尾遺跡	9. 島遺跡
10. 曲226号墳	11. 船渡遺跡	12. 米里銅鐸出土地
13. 米里第1遺跡	14. 米里第2遺跡	15. 天神川河床遺跡
16. 宇ノ塚遺跡	17. 殿屋敷遺跡	18. 馬場遺跡
19. 用露鼻遺跡	20. 長畑遺跡	21. 茶臼山要害
22. 中浜遺跡	23. 下神1号墳	24. 曲第1遺跡(曲岡遺跡)

挿表 北条町内遺跡一覧表

第2章 位置と環境

北条町は、県の中央部を流れる天神川^{てんじんがわ}の左岸を占める場所に位置し、東は天神川を隔てて羽合町^{はわい}、西は大栄町^{だいえい}、南は倉吉市^{くらよし}と接し、北には日本海^{にほんかい}が広がっている。

古くは北条郷といわれ、上・中・下の3北条村に分かれていたが、1954年(昭和29)に中、下北条村が合併し現在の北条町になる。町域は、東西約5.6km、南北約4.7km、面積20.74km²で、北部—北条砂丘、中央部—北条平野、南部—丘陵部から成っている。県下3大砂丘の1つ北条砂丘は日本海に面し、約1万年前の大山噴火^{だいせん}で堆積した火山灰に古砂丘が重なり、その上に古代遺物の包含層・クロスナ層があり、更に現在の新砂丘で覆われ砂丘が形成されている。代表的な砂丘遺跡に隣町の羽合町から発見された長瀬高浜遺跡^{ながせたかはま}があるが、本町からは江北^{えきたはま}北野神社^{きたの}付近の河川工事の際に土師器、須恵器、土馬、銅鏡、鍍片が出土し、弓原浜^{ゆみはら}、下神^{しもつわ}の採砂場から弥生式土器、土師器片が出土(22、中浜遺跡)、その南には下神1号墳(23)も認められている。水田地帯が広がる北条平野は、低平な沖積平野で古くからの穀倉地帯であった。ここからは、1952年(昭27)北条川付替工事の際、大量の縄文土器が出土した島遺跡^{しま}(9)が発見されている。同じように土器等の検出があった米里船渡遺跡^{よねさとみなど}(11)、北尾遺跡^{きたお}(8)も水田下から発見されている。丘陵地帯には、遺跡分布図に見られるように、茶臼山を中心とした茶臼山古墳群^{ちやうすやま}(約55基・4)、土下山^{はした}を中心とした土下古墳群(約270基・2)、蜘蛛ヶ家山^{くもがいやま}—帯にある曲古墳群^{まがり}(約230基・1)、北尾古墳群(約25基・5)、島古墳群(約6基)など、古墳が密集している県下有数の地域である。また、丘陵部には平野部を見下ろす小高い山が連なっており、明治以降は桑園化が進み、現在は梨や柿を栽培する果樹園として開墾されているため、古墳や遺構が破壊され今やその詳しい数や様子は分からなくなっている。

時代を追って当地の人間生活をたどってゆくと、まず縄文時代の遺跡が平野部の低湿地に集中しており、ここで生活が営まれていたようだ。前述した島遺跡は、前期から後期に属する土器(爪形文や刺突文土器)が大量に出土し、島式として土器編年がなされ県内縄文遺跡の指標として編年に使用されている。その後の1983年(昭58)の災害復旧に伴う緊急調査でも、縄文土器・丸木船の他、貝類の包含層が検出されその中にヤマトシジミやマガキ・ハマグリなどがあり、当時の生活がしのばれる。

弥生時代の遺構は町内では検出されておらず、曲第一(岡)遺跡(24)、北尾・島各遺跡で弥生土器片が出土したのみで、その様相は明らかではない。しかし、米里の通称「蔵合屋」^{そうごや}(12)と呼ばれる畑地の流出した土砂中から弥生土器の壺と袈裟褌の銅鐸が発見されており、例にもれず当地でも弥生の祭祀が行われていたことが推察できる。

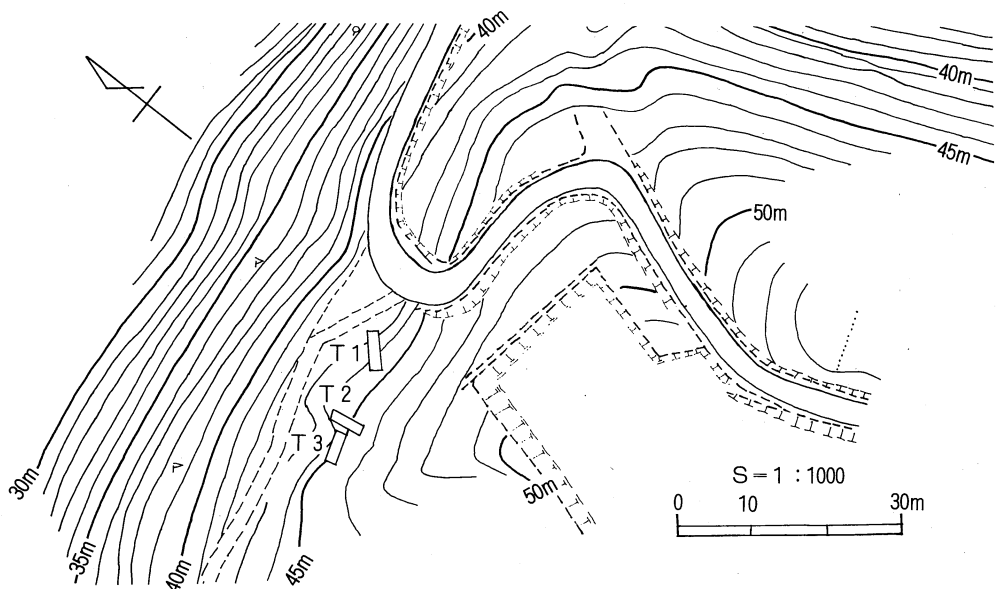
古墳時代に入ると、丘陵部の斜面を利用して墳墓が次々と造られた。前期前半には、曲

148号墳（径20m・円墳）などが造られ、箱式石棺を主体部とした古墳が中心であった。中期には、同じく箱式石棺墓の土下129号墳（径20m以上・方墳）などがあり、後期に入ると曲や土下、茶臼山、北尾といった所に小型の前方後円墳や大型の円墳を中心とした群集墳が盛んに築造された。中でも、土下古墳群に隣接してある土下213号墳（通称「やすみ塚」、全長約33m・前方後円墳・3）と土下210号墳（径約17m・方墳）の周辺から、鹿埴輪が出土するなど、豊かな古墳文化が想像でき当地域が倉吉とともに伯耆の中心であったことが伺える。そこから200m離れて、終末期の横穴式石室（土下229号墳）が露見しており魚の線刻が確認されている。生活跡としては、蜘蛛ヶ家山北麓の丘陵裾部緩斜面から発見された曲第一（岡）遺跡より、後期の住居跡が検出されている。

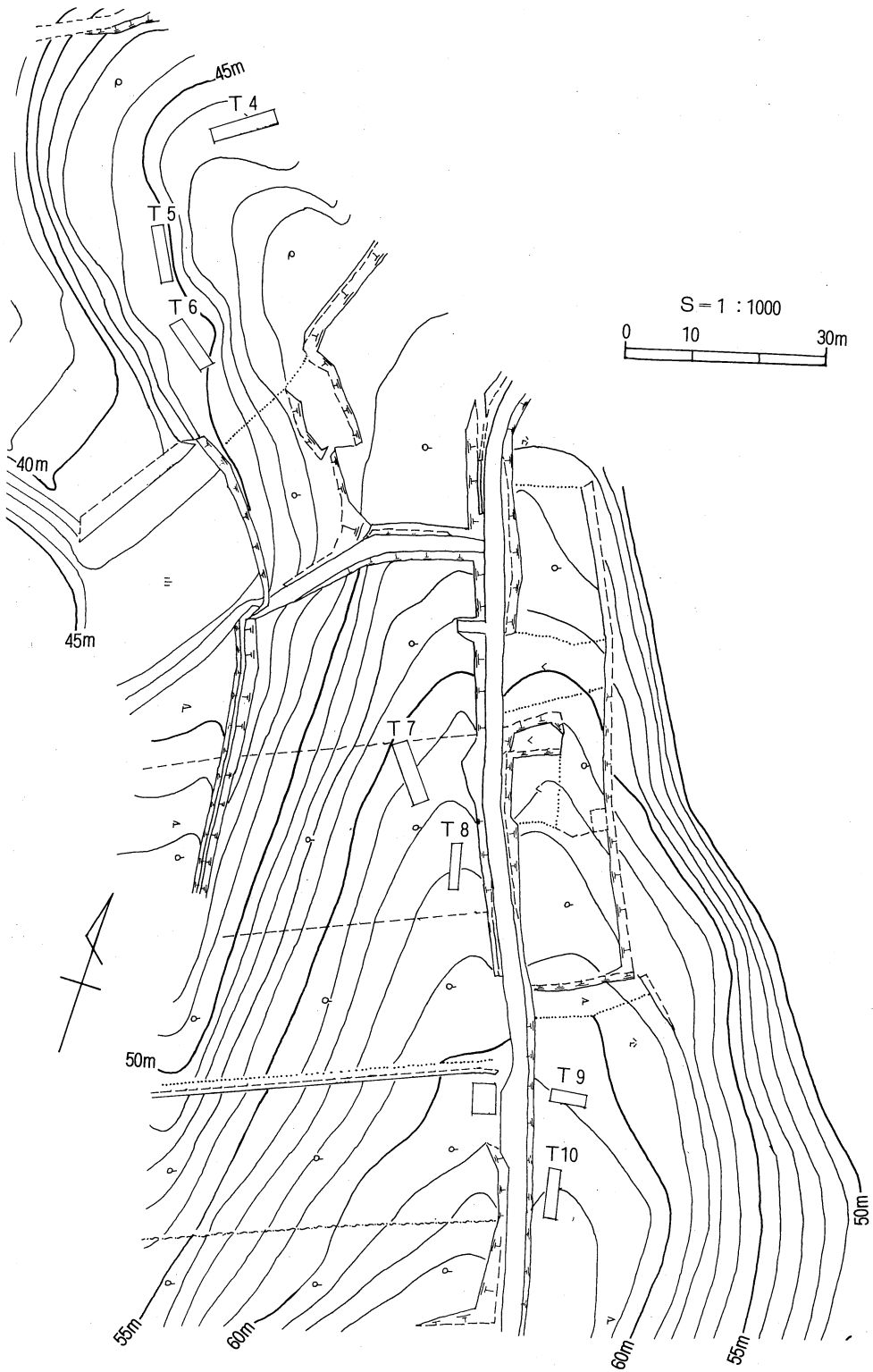
歴史時代は、茶臼山には城跡（21）及び延喜式内社国坂神社（伯耆四宮）、島には堤城、北尾には京都石清水八幡宮の別宮である北条八幡宮が存在する。国坂神社はかつて交通の要所であり、北条は豊富な穀倉地帯で漁業も盛んであったことなどから、荘園時代から中世、戦国期にかけて多くの人々の生活を支えていたことが想像できる。

今回調査した北尾と曲は、それぞれ蜘蛛ヶ家山の東麓に在り、古墳の密集帯に近いことから試掘調査を行った。農道や農地造成がすすみ、その都度試掘・本調査を繰り返してきたが、古墳をはじめ町内にねむっている多くの遺跡のうち調査を終えたところはごく僅かであり、詳しい歴史的環境の解明はこれからである。

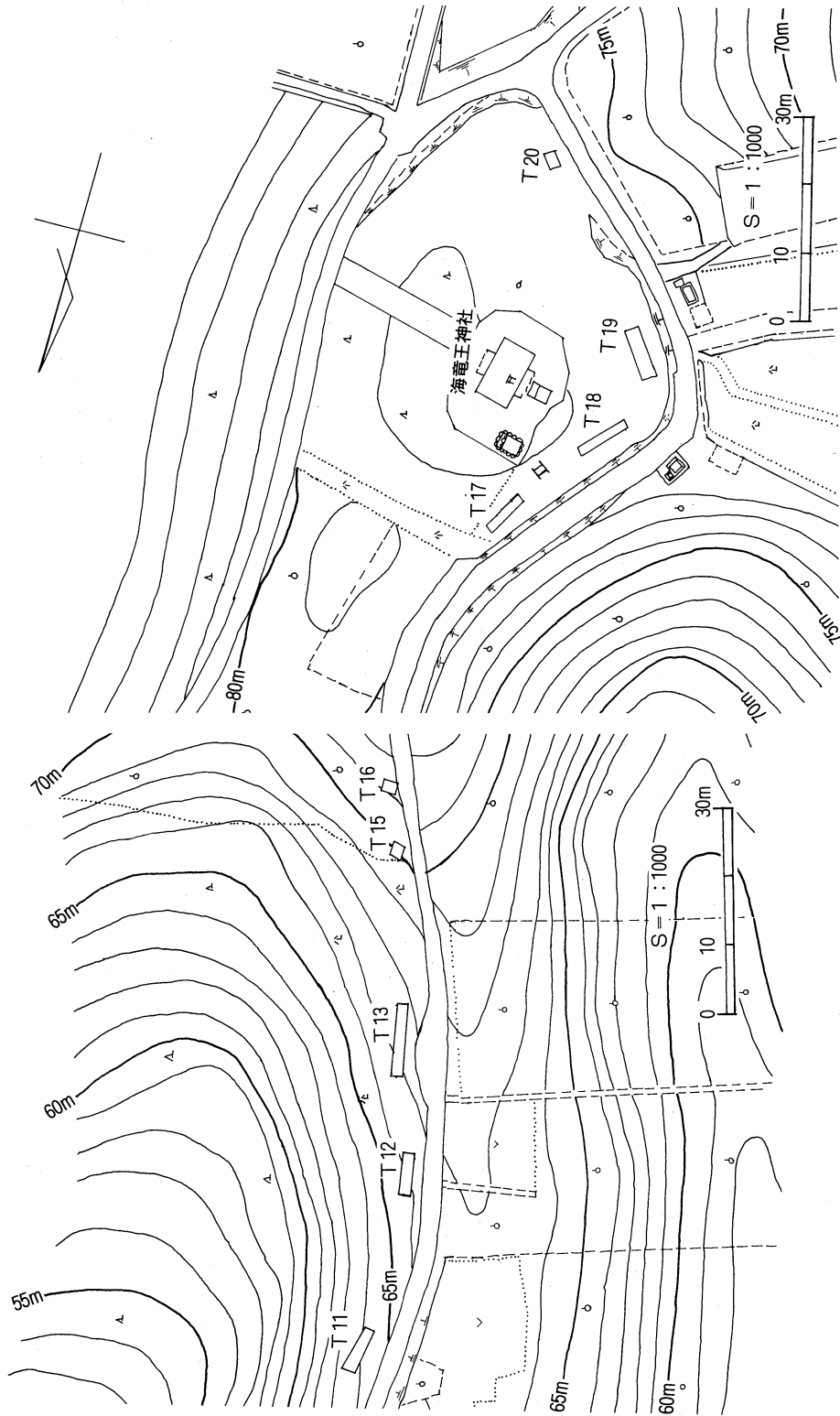
なお、本文中の遺跡名の跡に記した番号は、「北条町内遺跡分布図」また「一覧表」のものである。



挿図3 西曲地区トレンチ配置図① (T1～3)



挿図4 西曲地区トレンチ配置図② (T4~10)



挿図5 西曲地区トレンチ配置図③ (T11~20)

第3章 調査の概要

1. 西曲地区試掘調査（管峯長谷遺跡、苜山遺跡）

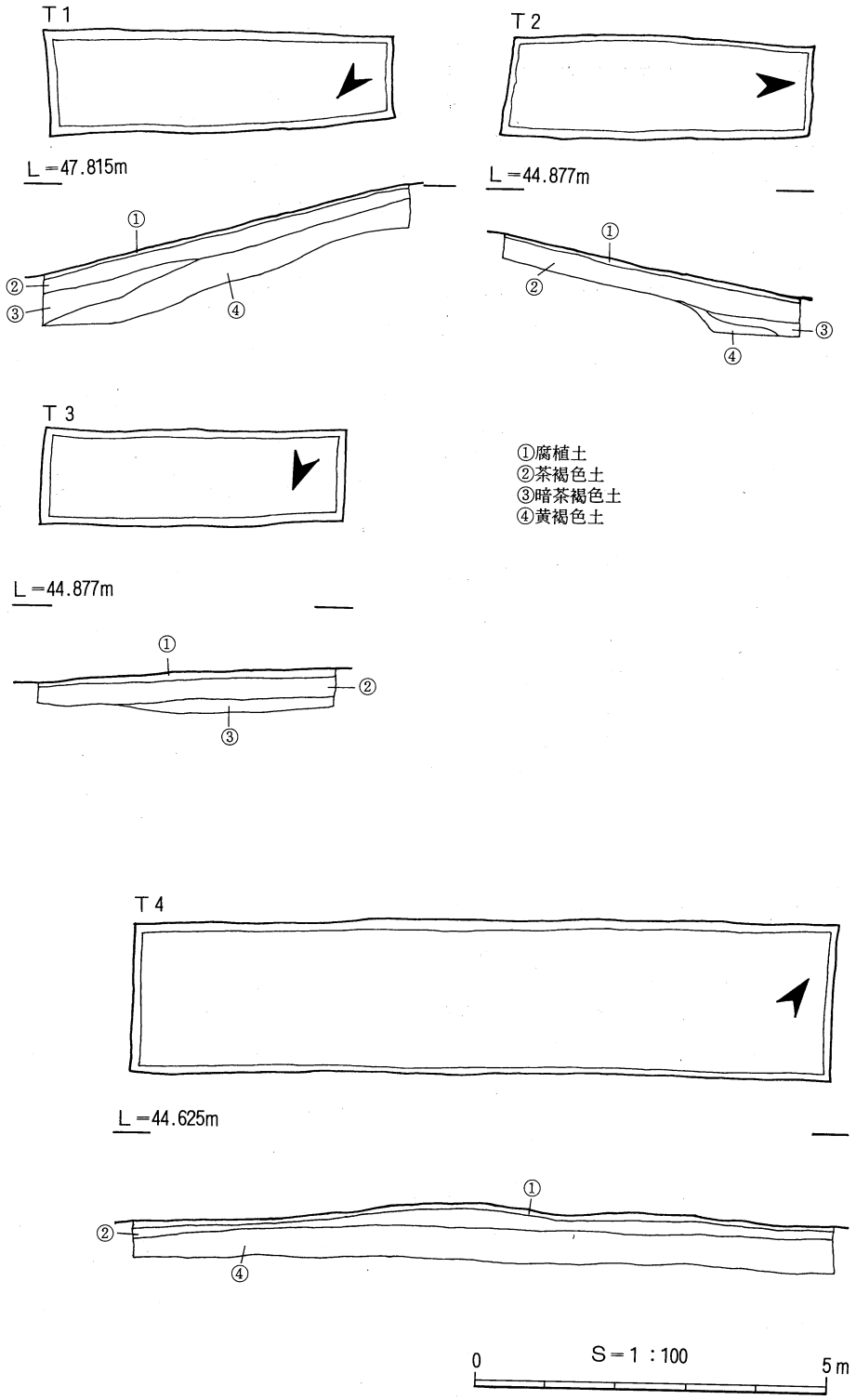
この調査は、本町曲地区から蜘蛛ヶ家山西側に位置する海竜王神社（苜山神社）までの農道を、県営西曲地区ふるさと農道整備事業として道跡幅拡張などが計画されているため、現在の道跡沿いのそれぞれの地形に合わせて幅1～2m、長さ2～10mのトレンチ（T）を20本（T1～20、191.35㎡）設定し、遺跡の有無とその範囲の確認を行った。また、海竜王神社境内西側には石棺が露出していたため、その石棺に伴う曲233号墳の範囲と周溝の確認も共に行った。

各トレンチの発掘調査の結果は、各トレンチ調査一覧表（P8～9）及び各トレンチ実測図（P10～11）のとおりである。

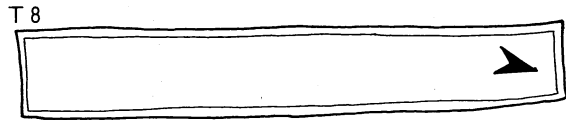
各トレンチ調査状況一覧表

トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ (cm)	面積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構
T1	6		60～95	7.35	①腐植土 ②茶褐色土 ③暗茶褐色土 ④黄褐色土	土師器片37 口縁部片2 足部1
T2	6	1	30～70	5.16	①腐植土 ②茶褐色土 ③暗茶褐色土 ④黄褐色土	土師器片14 住居跡
T3	6		30～60	5.88	①腐植土 ②茶褐色土 ③暗茶褐色土	土師器片40
T4	6		60	22.0	①腐植土 ②茶褐色土 ③黄褐色土	
T5	4		30	18.69	①表土（暗茶褐色土）	土師器片11
T6	4		20～50	7.01	①表土（茶褐色土） ②表土（粘土岩混） ③淡茶褐色土レキ粒混	土師器片15 須恵器片2 甕口縁部片4
T7			20～70	12.78	①表土（耕作土）	土師器片8 須恵器片1
T8	7		20～60	7.92	①表土（耕作土）	土師器片39
T9	7		60	7.5	①表土 ②茶褐色土混黄褐色土 ③黄褐色土 ④茶褐色土 ⑤茶褐色土混茶灰色土	

トレンチ 番 号	挿図 番号	図版 番号	深 さ (cm)	面 積 (m ²)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構
T10	7		70~100	10.5	①表土 ②茶灰色土 ③茶褐色土 ④黄褐色土 ⑤茶灰色土混茶褐色土 ⑥暗茶灰色土 ⑦茶灰色土混黄褐色土	土師器片66 須恵器片1 甕口縁部片3 たたき石1
T11	7		65	7.14	①表土 ②茶褐色土 ③暗茶褐色土 ④茶褐色土混黄褐色土 ⑤濃暗茶褐色土 ⑥黄褐色レキ土	土師器片64 たたき石1 住居跡
T12	7		40~90	9.1	①表土 ②黄褐色土 ③灰色土 ④赤褐色土	
T13	5		70	8.54	①表土 ②黄褐色土 ③灰色土	
T14	5		75	13.52	①表土 ②茶褐色土 ③茶灰色土 ④黄褐色土 ⑤茶灰色土レキブロック混 ⑥茶褐色土混黄褐色土	土師器片36
T15	5		30	2.25	①表土 ②茶褐色土	
T16	5		40	2.66	①表土 ②黄褐色土	
T17	5		80	7.2	①表土 ②茶褐色土混黄褐色土 ③茶褐色土	土師器片12 須恵器片2 溝状遺構
T18	5		40~110	8.25	①表土 ②茶褐色土 ③黒褐色土 ④黄褐色土	土師器片1 墳丘
T19	5		60	14.8	①表土 ②黄褐色土 ③茶褐色土混黄褐色土 ④暗黄褐色土 ⑤茶褐色土(レキ粒混) ⑥暗茶褐色土 ⑦茶褐色土 ⑧明茶褐色土	中世陶器口縁部片2 中世陶器片2 周溝
T20	5		60	2.8	①表土 ②黒褐色土 ③黄褐色土	土師器片2

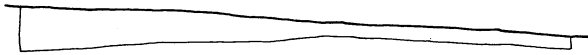


挿図6 西曲地区トレンチ平断面図① (T 1 ~ 4)

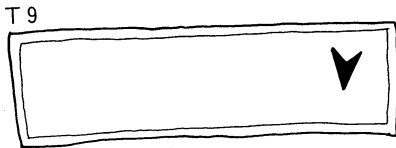


L = 59.113m

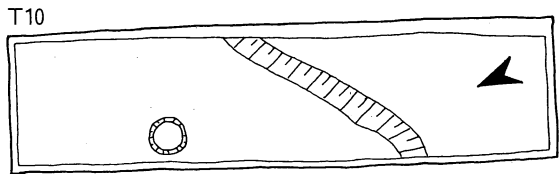
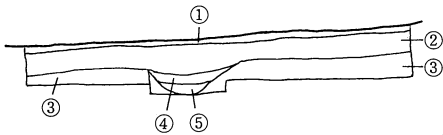
①(耕作土)



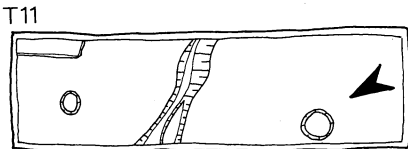
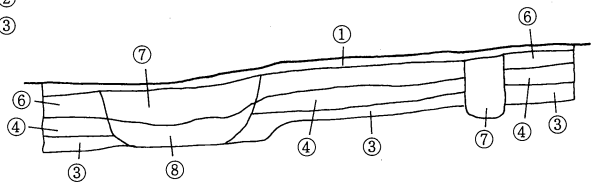
- ①表土
- ②茶褐色土混黄褐色土
- ③黄褐色土
- ④茶褐色土
- ⑤茶褐色土混茶灰色土
- ⑥茶灰色土
- ⑦茶灰色土混茶褐色土
- ⑧暗茶灰色土
- ⑨茶灰色土混黄褐色土
- ⑩暗茶褐色土
- ⑪濃暗茶褐色土
- ⑫黄褐色レキ土
- ⑬灰色土
- ⑭赤褐色土



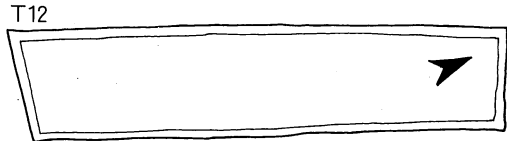
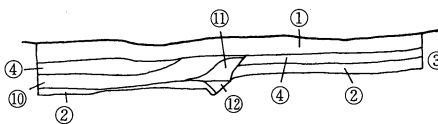
L = 61.269m



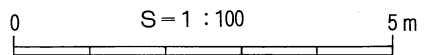
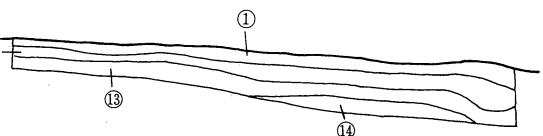
L = 63.656m



L = 64.314m



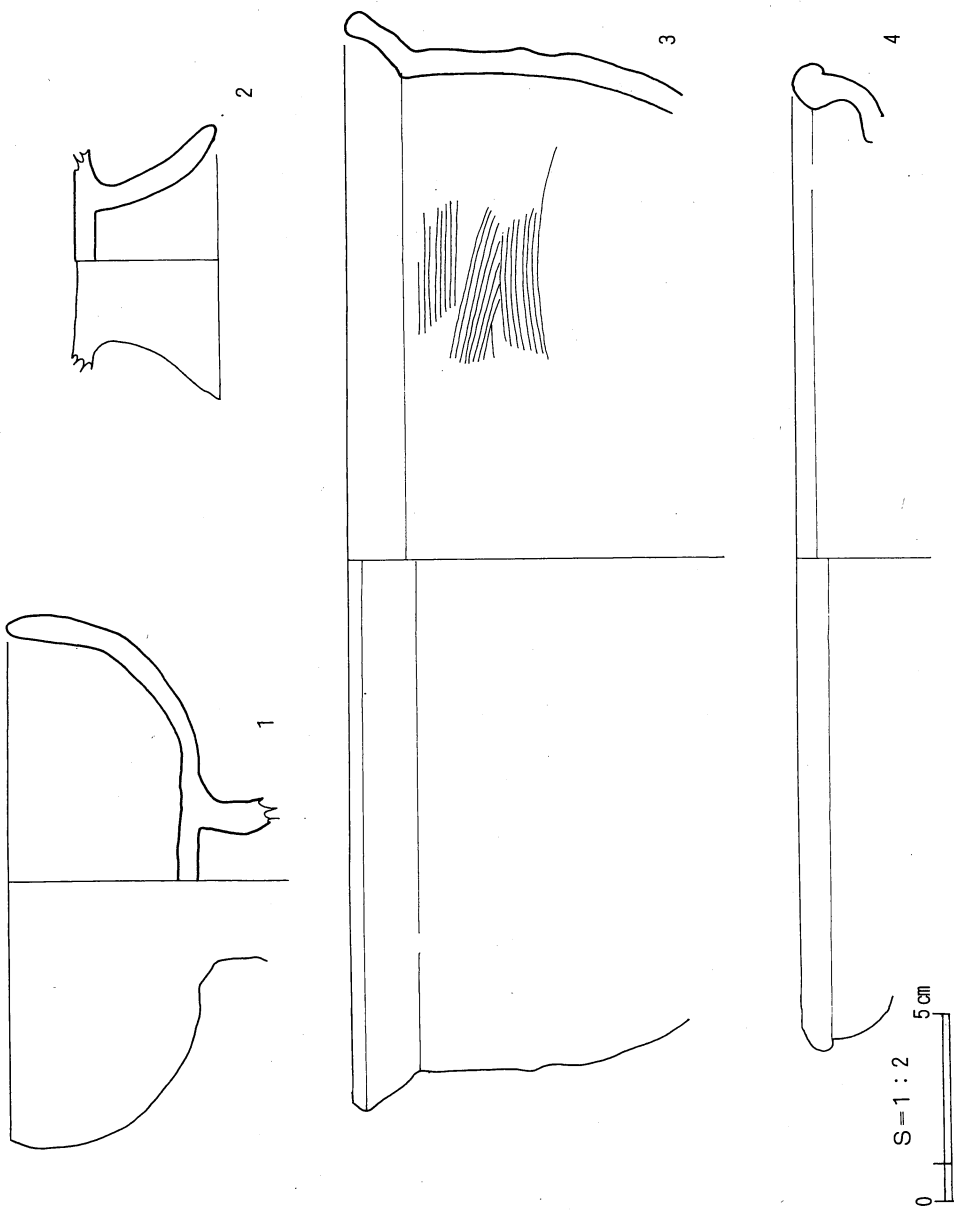
L = 65.459m



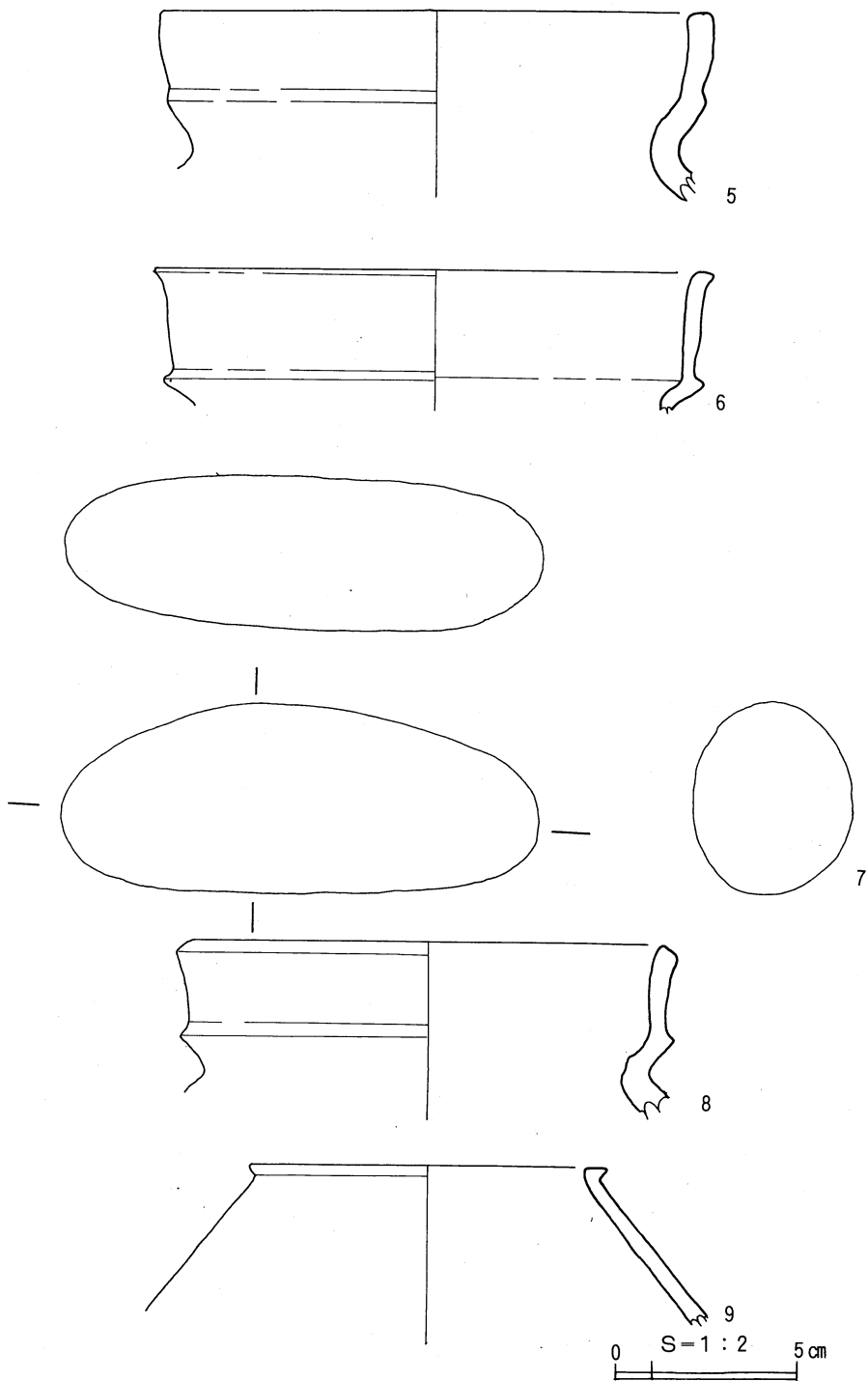
挿図7 西曲地区トレンチ平断面図② (T8~12)

2. 西曲地区出土遺物一覧表

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
No.2	土師器 高 杯	T1	8	3	口径 13.6cm 残器高 6.8cm	古墳中期末 (5C)	口縁部は丸く、ゆるやかにしぼんで碗状の杯。口縁部下側がやや肥厚気味である。	内外面ヨコナデ、内面底部はハクリしている。腕部と脚部は接合されている。	良	赤茶褐色	やや不良 1~3mmの 砂礫含
No.3	低脚 杯	T1	8	3	脚部径約7.6cm 残器高 3.7cm	不明	頸部からゆるやかに外側にひらく。	内面はナデ。外面はハクリしており、不明。	やや不良	淡黄褐色	やや良 1mm前後の 砂粒含
No.4	土師器 土 鍋	T6	8	3	口径 28.6cm	室町時代	口縁端部の角には丸みがあり、口縁部はゆるく外側にふくらみ、頸部はくの字に屈曲し体部につながる。体部は壁厚が薄くゆるやかな碗状になっている。外面全体にスミが付着している。	外面は、回転ろくろで調整しその後指頭圧痕で整える。口縁部内面はナデ、体部内面はハケ目あり。	良	外面、黒色	良
No.5	土師器 土 鍋	T6	8	3	口径 24.6cm	室町時代	口縁端部は丸みがあり、外側下方へふくらみ出ている。口縁全体は丸くふくらんで体部へつながっていく。	口縁部内外面ナデ。	良	黒灰色	良 1mm前後の 砂粒含
No.6	土師器 甕	T10	9	3	口径 14.8cm	古墳中期 (5C)	口縁端部は5mmの平坦面があり角は丸味をおびており、内側に傾き気味である。頸部はくの字に屈曲している複合口縁。下端部は退化しており、ほとんど出っ張りをもたず丸味をもつ。一部にスミが付着している。	口縁部内外面ヨコナデ。内面頸部以外ハクリ。	良	淡黄褐色	やや良 3mm前後の 砂礫含
No.7	土師器 甕	T10	9	3	口径 15.4cm	古墳前半 (4C)	口縁端部は5mmの平坦面があり、外側につまみ出されたようになっている。複合口縁で、下端部は真横につまみ出し、上端部まで少し開きぎみで上がる。壁厚はたいへん薄い。	口縁部内外面ヨコナデ。	良	淡黄褐色	良
No.8	たたき石	T11	9		長径 13.0cm 直径 5.2cm		石質はぎょう灰岩で、棒状長丸形を呈し、全体になめらかで嚙み痕がある。			灰色	
No.9	土師器 甕	T11	9	3	口径 13.0cm	古墳前期 (4C)	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外傾気味の複合口縁。口縁端部はやや厚みがあり外反気味。下端部は真横にとがり気味につまみ出されている。	口縁部内外面ヨコナデ。	良	淡茶褐色	やや不良 3mm前後の 砂礫含
No.10	陶 器	T19	9	3	口径 9.8cm	近 世 (18C)	口縁端部に6mmの平坦部があり、端部からすぐくの字にしっかり削りこまれている。口縁端部から外側下方にまっすぐ広がり張り出している体部をもつ。	内外面回転ろくろで調整されている。	良	赤茶褐色	良



挿図 8 西曲地区出土遺物その 1



挿図9 西曲地区出土遺物その2

3. 北尾地区試掘調査（北尾23号墳）

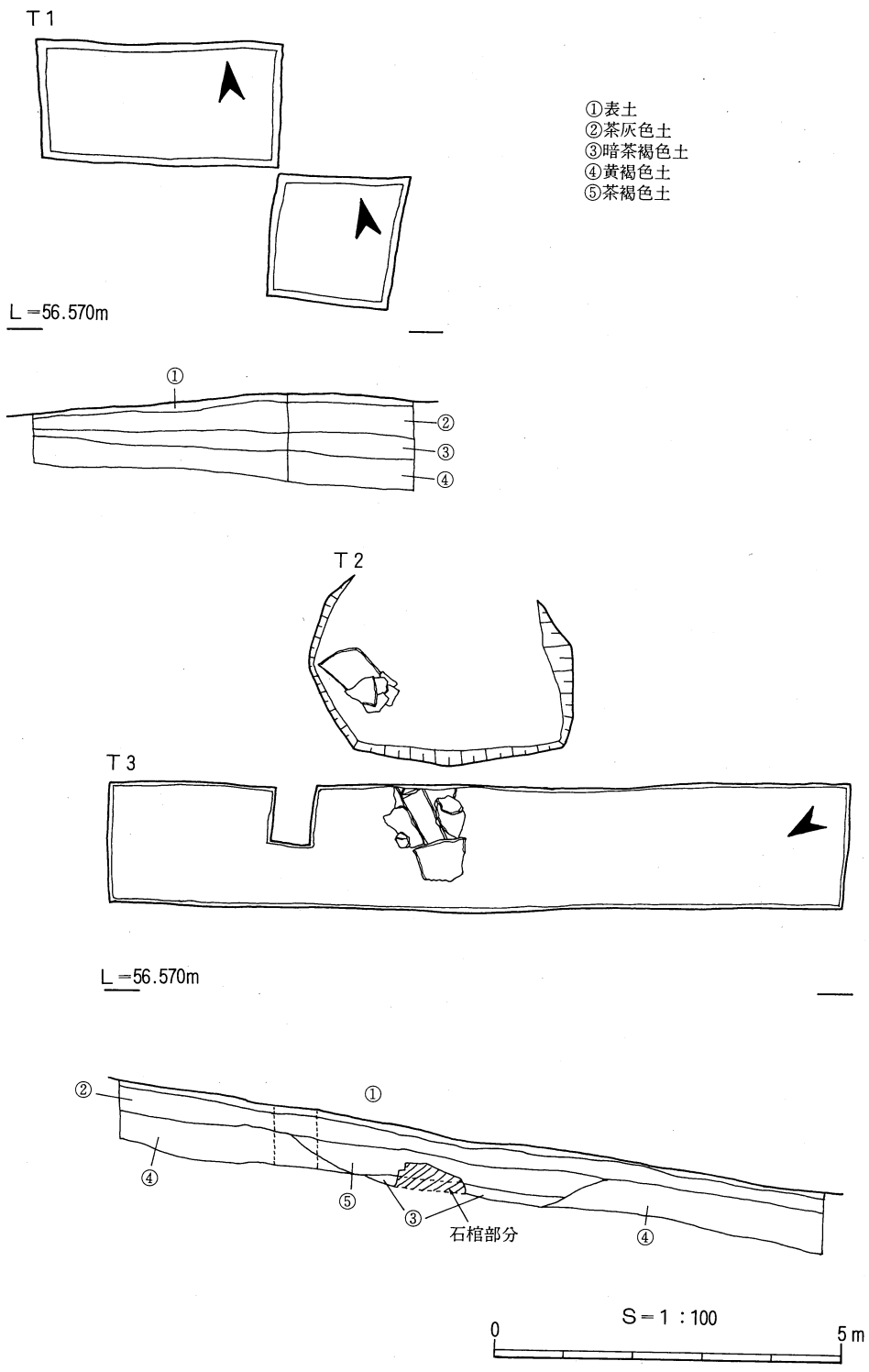
この調査は、蜘蛛ヶ家山の東に位置する北条八幡宮の南側に計画された県宮島地区一般農道整備事業（幹線1号）の工事予定地内の山中に、幅1～4m、長さ3～12mのトレンチ（T）を21本（T1～21、272.37㎡）設定し、遺跡の有無等の確認を行った。北条八幡宮駐車場のすぐ南のT2、T3から、箱式石棺が1つずつ計2基検出された。（北尾23号墳）その他のトレンチからは何も検出されなかった。

各トレンチの発掘調査の計画は、各トレンチ調査一覧表（P15～16）及び各トレンチ実測図（P17）のとおりである。

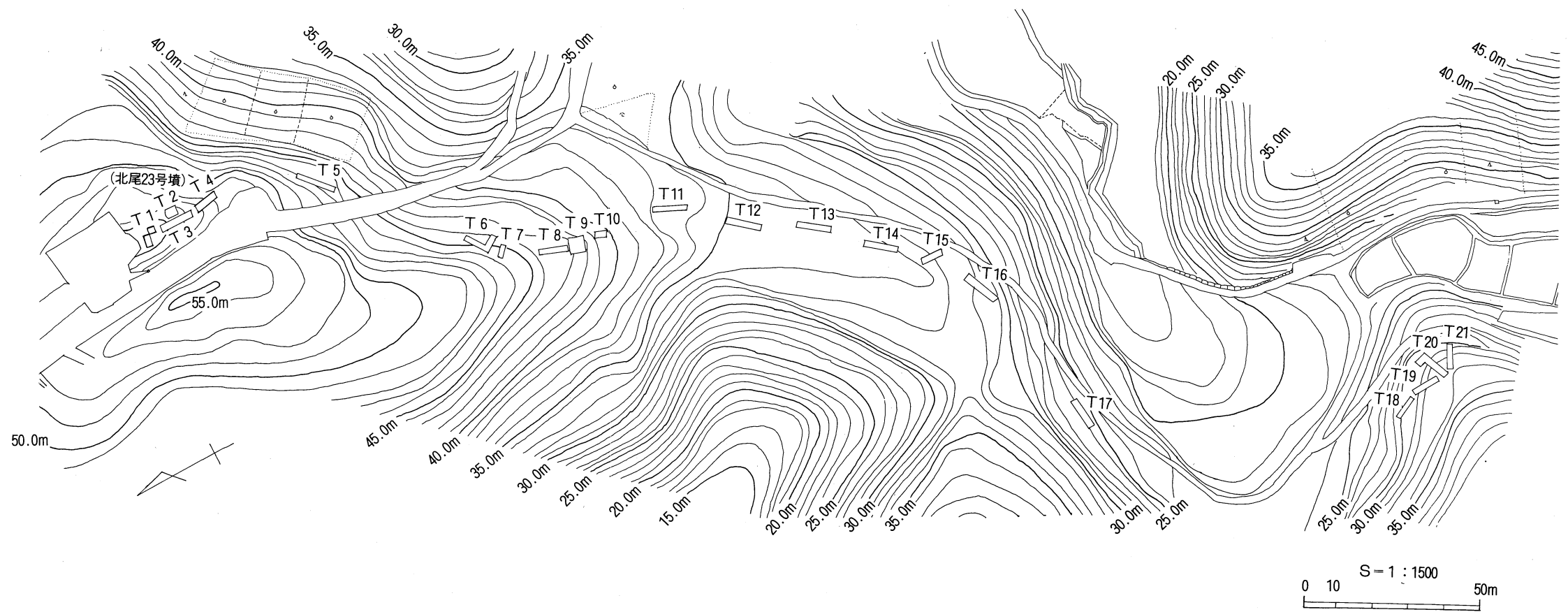
各トレンチ調査状況一覧表

トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ (cm)	面積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構
T1	10		70～130	9.19	①表土 ②茶灰色土 ③暗茶褐色土 ④黄褐色土	土師器片 5 須恵器片 8
T2	10					土師器片16 須恵器片23 加工石 1 箱式石棺 1
T3	10	2	80	19.6	①表土 ②茶灰色土 ③黄褐色土 ④茶褐色土 ⑤暗茶褐色土	箱式石棺 1
T4	11		50	13.5	①表土 ②黄褐色土	
T5	11		60	13.64	①表土 ②黄褐色土	
T6	11		30～180	15.21	①黄褐色土レキ混 ②茶褐色土	
T7	11		20	4.4	①表土	
T8	11		50	7.1	①表土 ②茶褐色土 ③茶灰色土	
T9	11		40	19.6	①表土 ②黄褐色土	土師器片 1 須恵器片 1
T10	11		50	5.22	①表土 ②茶褐色土	
T11	11		80	14.4	①表土 ②茶褐色土 ③淡茶褐色土レキ粒混	土師器片 2 須恵器片 8 加工石 1

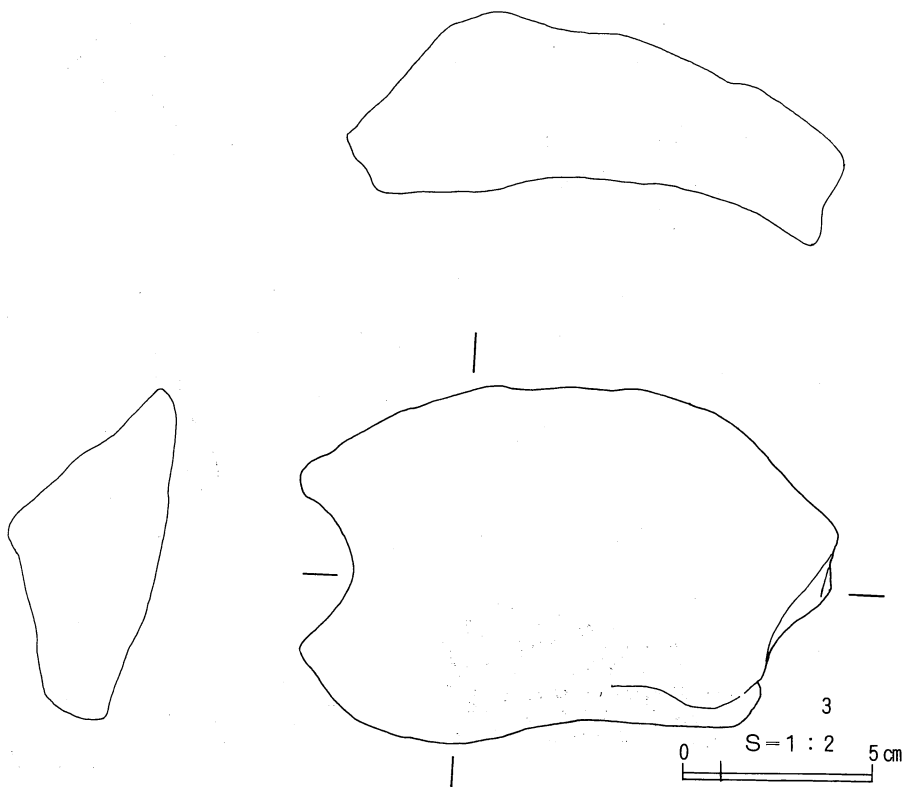
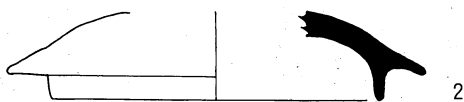
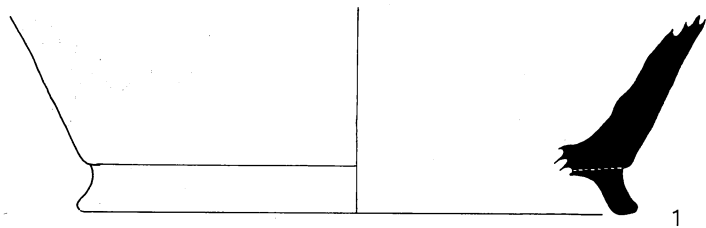
トレンチ 番 号	挿 図 番 号	図版 番 号	深 さ (cm)	面 積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構
T12	11		40	20	①腐植土	須恵器片 1
T13	11		40	20	②腐植土	
T14	11		30	20	③腐植土	
T15	11		30~50	10.4	①腐植土 ②黄褐色土 ③茶褐色土 ④濃暗茶褐色土	土師器片21
T16	11		20~50	20	①腐色土 ②茶褐色土 ③黄褐色土	
T17	11		20~70	18	①腐色土 ②茶褐色土	
T18	11	2	50	7.92	①表土 ②茶褐色土	
T19	11		30~100	13.5	①表土 ②茶褐色土	
T20	11		50	13.26	①表土 ②茶褐色土	
T21	11		20~100	11.68	①表土 ②茶褐色土 ③黄褐色土	土師器片55 甕口縁部片 2



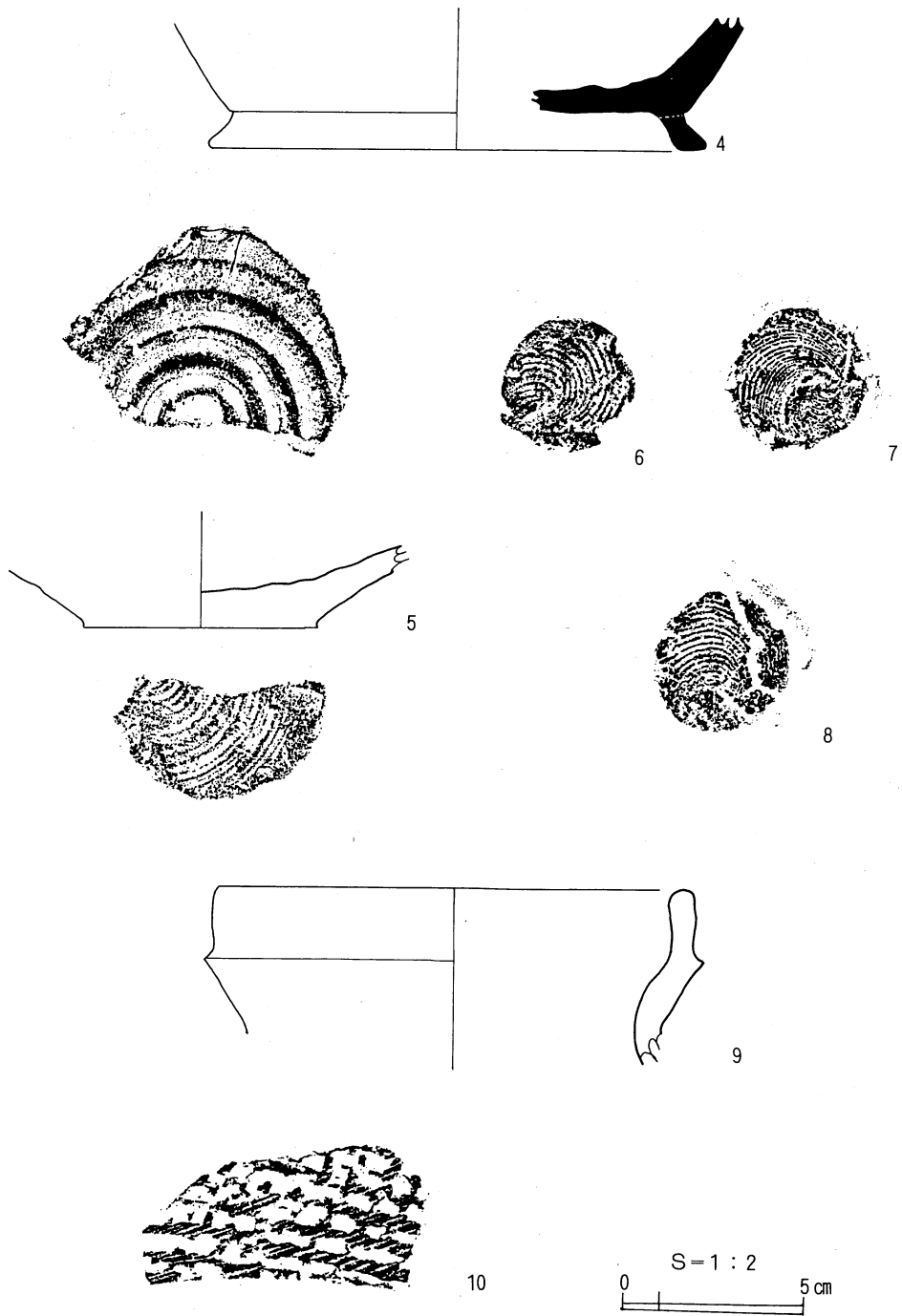
挿図10 北尾地区トレンチ平断面図 (T 1 ~ 3)



挿図11 北尾地区トレンチ配置図 (T1~21)



挿図12 北尾地区出土遺物その1



挿図13 北尾地区出土遺物その2

4. 北尾地区出土遺物一覧表

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
No.11	須恵器 台付頸 壺	T 1	12	4	底部径14.6cm	奈良時代 (7C後半)	底部高台は外反して外側に広がっている。端部は丸く厚みがある。体部は、高台からそのまま外側へ広がりがりながら上方へびている。	体部内外面は、左方向への回転ヨコナデ調整。底部は貼りつけ高台。	良	青灰色	良
No.12	須恵器 蓋	T 1	12	4	口径 8.6cm	不 明	立方上がりはほぼ垂直に上がり、端部はうすく丸味をおびている。受部は下方へ内傾気味にのび、端は丸味をおびている。受部のほうが長い。	口縁部内外面ヨコナデ。	良	青灰色	良 1mm前後の砂粒含
No.13	加工痕のある石	T 2	12		長径 13.1cm 短径 8.8cm 厚さ 4.7cm		石質は細粒ぎょう灰岩で端を丸く半円形に削り、なめらかにした加工痕がある。全体が弓なりにそっており、裏はやはりなめらかである。			白茶褐色	
No.14	須恵器 台付頸 壺	T 2	13	4	底部径13.8cm	奈良時代 (7C後半)	底部高台は外反し、外側に広がる。端部は丸みがあり、体部は高台からそのまま外側へ広がりがり立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。	良	青灰色	良
No.15	土師器 坏	T 2	13	4	底部径 6.4cm	不 明	底部は厚めで内面はほとんど平坦。外面はゆるやかにのび上がる。	底部外面に回転糸切り痕あり。内面に指おしのろくろ回転跡がはっきり残っている。	良	淡茶褐色	良
No.16 ~18	土師器 小 皿	T 2	13	4	底部径3.5~ 4.0cm	不 明	底部外面の糸切り痕あとは長丸形。	底部外面に回転糸切り痕あり。	良	茶褐色	良
No.19	大甕の 体部	T12	13	4		不 明		外面に格子状のタタキ後カキ目調整。内面に円弧状のあて具痕の跡がある。	良	灰色	良

5. 農免道路予定地試掘調査

この調査は、本町の曲地内から蜘蛛ヶ家山西側の山林や果樹園を北から南に通るように計画されている県営北条西2期地区農免農道整備事業で、平成6年度の続きで平成7年度工事予定地内に幅1.5~2m、長さ6~10mのトレンチ(T)を6本(T1~6、68.56㎡)設定し、遺跡の有無を確認した。T1以外は果樹園内だったため、攪乱が激しくパイプやコンクリートが地中に埋まっていたなどで遺構の検出は全くなかった。

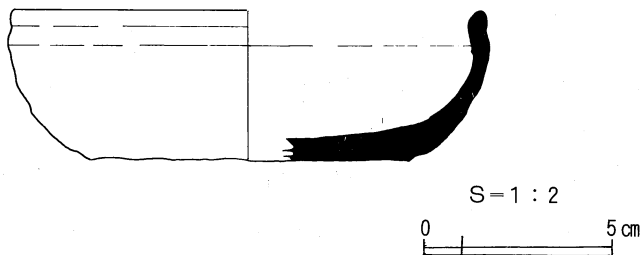
各トレンチの発掘調査の結果は、各トレンチ調査一覧表(P23)のとおりである。

各トレンチ調査状況一覧表

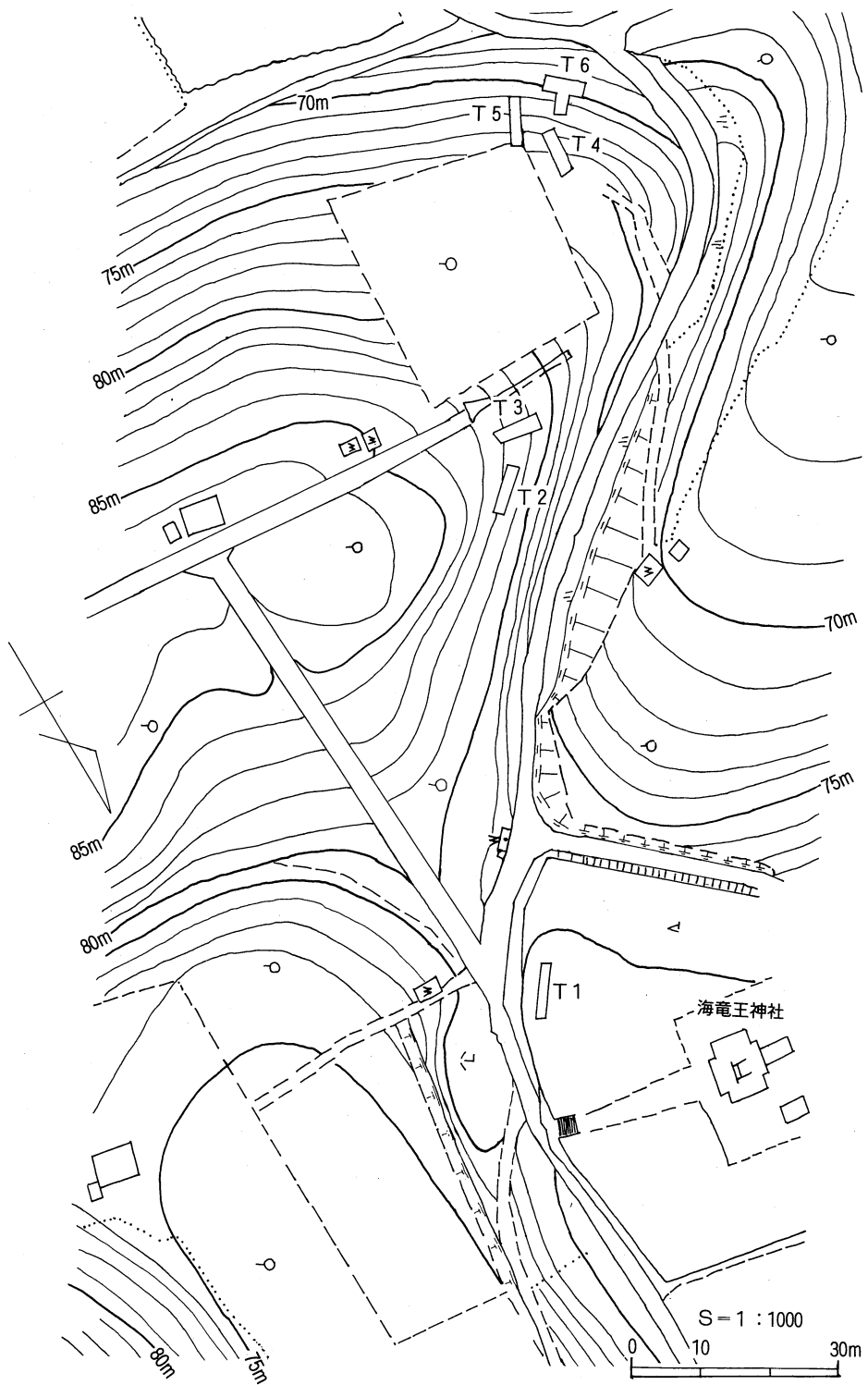
トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ (cm)	面積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構
T 1	15		60	12.0	①表土 ②茶褐色土 ③黄褐色土	土師器片 1 須恵器片 1 古銭 2
T 2	15		40~60	10.95	①茶褐色土混黄褐色土	土師器片18 須恵器片 3
T 3	15		50	10.08	①茶褐色土混黄褐色土	土師器片10 須恵器片坏身 1
T 4	15		35~95	9.92	①表土 ②黄色土	
T 5	15		20~75	10.95	①表土 (耕作土)	
T 6	15		50~100	15.66	①表土 (耕作土) ②赤褐色土	

6. 農免予定地区出土遺物一覧表

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
No. 1	須恵器 坏身	T 3	14	4	口径 12.4cm 底部径 8.4cm 高さ 4.0cm	奈良時代 (8 C)	口縁部は丸く厚みがあり、内側にゆるくの字に押しだしたようになっている。体部中程の壁厚はうすめで底部は厚め。	体部内外面は回転ヨコナデ。底部は回転糸切痕があり、一部キズも見られる。	良	青灰色	やや不良 細砂 3mm前後の砂礫含



挿図14 農免地区出土遺物



挿図15 農免地区トレンチ配置図 (T1~6)

第4章 まとめにかえて

平成7年度は、3つの道路整備事業による試掘調査を行った。西曲地区20本、北尾21本、農免予定地区6本の計47本のトレンチを設定し、遺跡の有無や範囲を確認した。

西曲地区では、T2では住居跡と思われる落ち込みが断面に出ており、古墳時代中期末の壊らしきものも出土している。T1、T3からは土器片は多く出土していたが、遺構の検出はできなかった。T4、T5、T6では遺構はなく、T6の表土から中世の土鍋が出土したが流れこみと思われる。T7からT11までは土器片がまばらに出土し、T10から出た甕口縁部は青木Ⅸ期併行期と考え、T11からは住居跡と思われる溝状遺構とピットが検出された。T13からT16までは遺構・遺物ともほとんど見つからなかった。T17からT20までは、海竜王神社内にトレンチを設定した。境内の北西に新たに見つかった曲233号墳の範囲の確認するために、露出していた石棺の両横にT18とT19を設置し掘り下げた結果、周溝が検出され曲233号墳の径は約16mと推定される。T17で溝状遺構が検出され、T20には何もなかった。T1～3、T7～19までは同一の谷に属し、特にT1～3、T7～11は管峯長谷遺跡、T17～19は荊山遺跡としてそれぞれ遺跡の範囲とする。

北尾地区では、T2、T3からは箱式石棺が出土し新たに北尾23号墳とした。北条八幡宮駐車場南の小高くなった丘状の斜面中程にT3を設定し掘り下げたところ、横38cm縦約90cmの石棺が蓋石が開かれた状態で検出されたため、東側にT2を設定し横55cm縦約1mの蓋石が覆われたままの石棺を検出。周辺から土師器・須恵器片が多少出土し田辺編年のTK48併行期と考えられる台付長頸壺の台部一部も出土している。T3の石棺の下には小石が広く敷き詰められていた。T2、3の北側上方にあるT1からも土器片が出土しており、T1、2、3を含むこの小丘を北尾23号墳の範囲とする。その他T4～21では土器片が出土したトレンチもあったが遺構らしきものはなく流れこみと思われるので遺跡はないものとする。

農免予定地区では、T1は海竜王神社内南東に道路に沿って設定、掘り下げたが、遺構遺物とも検出されなかった。T2～6は、小丘を開拓してつくられた急斜面の果樹園内に設定され約20～80cm掘り下げたが、攪乱が激しく遺構、遺物とも検出されなかった。この結果、農免予定地区には遺跡はないものと考えられる。

今回の試掘調査は道路予定地内という限られた範囲での発掘であったが、当地が遺跡集中地域ということもあり、いくつかの遺構の検出があった。この地域の遺跡は未だ全体像をつかむに至ってなく、今回の試掘と共に今後の発掘調査の成果が期待される。

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしだいごしゅう (すがみねながたにいせき、かりやまいせき、きたお23ごうふん)							
書名	町内遺跡発掘調査報告書第5集 (管峯長谷遺跡・苺山遺跡、北尾23号墳)							
副書名								
巻次	第5集							
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	19							
編著者名	樋口和夫 中原由香里							
編集機関	北条町教育委員会							
所在地	〒689-21 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL0858-36-3111							
発行年月日	西暦1996年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡		北緯 °'"	東経 °'"	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すがみねながたにいせき 管峯長谷遺跡	北条町曲 字管峯、長谷	31366		35° 28' 46"	133° 47' 34"	1999508 ~199510	191.35	県営西曲地区 ふるさと農道 整備事業に伴 う事前調査
かりやまいせき 苺山遺跡	" 字苺山			35° 28' 33"	133° 47' 38"			
きたお23ごうふん 北尾23号墳	"北尾字八幡山 <small>はちまんやま</small>			35° 28' 48"	133° 48' 38"	199505 ~199508	272.37	県営島地区一 般道路整備事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
管峯長谷遺跡	住居跡等		堅穴住居跡 約2棟		高坏の坏部 1つ 甕口縁 3つ たたき石 1つ			
苺山遺跡	古墳		箱式石棺 溝状遺跡		1基	陶器片 1つ		
北尾23号墳	古墳		箱式石棺		2基	台付長頸壺の台部 2つ		

版 圖



西曲地区 T2 遠景 (北から)



西曲地区 T2 (南から)



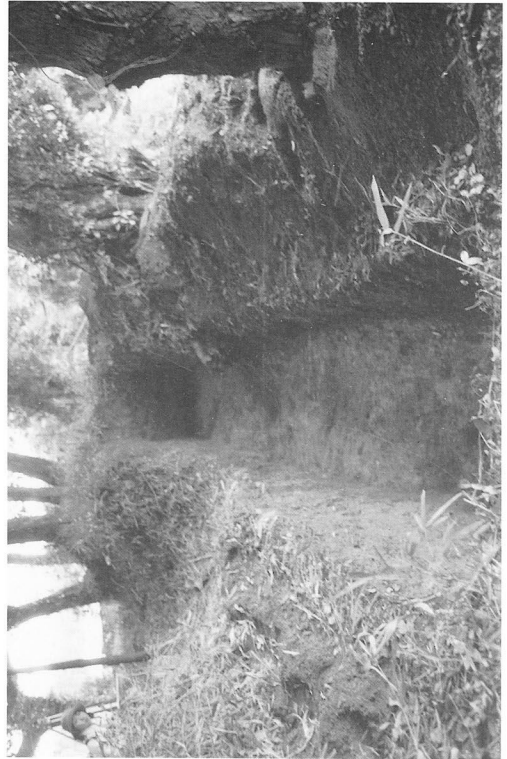
西曲地区 T11 遠景 (南から)



西曲地区 T11 (南から)



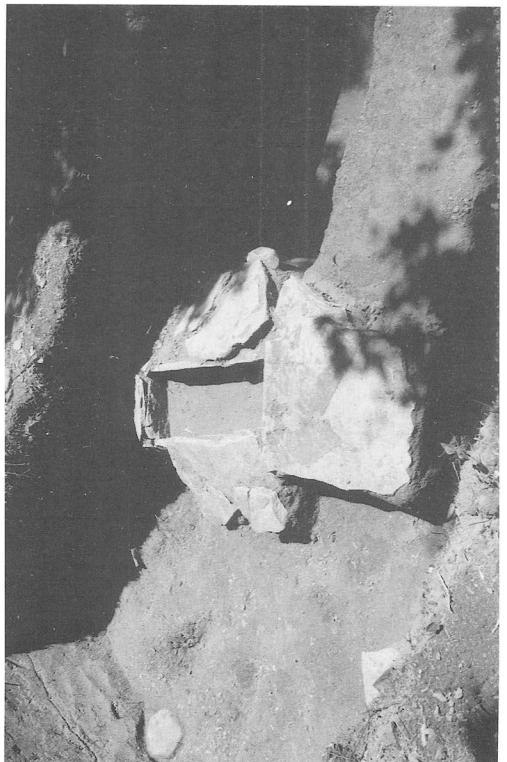
西曲地区 T18 遠景 (北から)



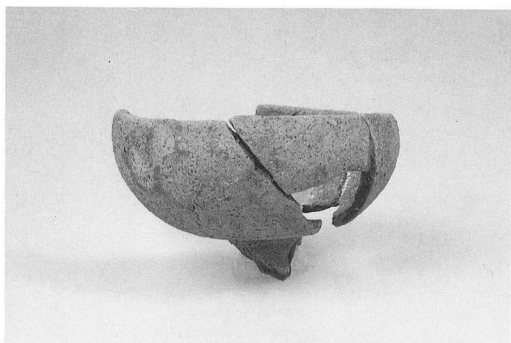
西曲地区 T18 (北東から)



北尾曲地区 T1. 2. 3 遠景 (北から)



北尾曲地区 T3 (西から)



西曲地区 T 1 出土



西曲地区 T10 出土



西曲地区 T 1 出土



西曲地区 T10 出土



西曲地区 T 6 出土



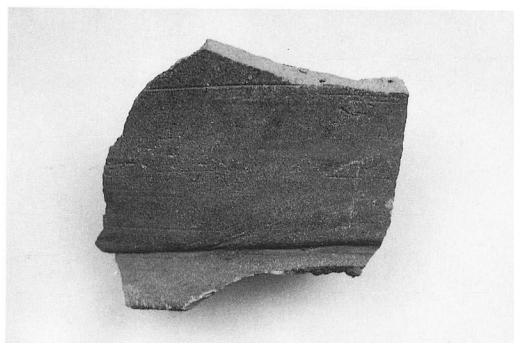
西曲地区 T11 出土



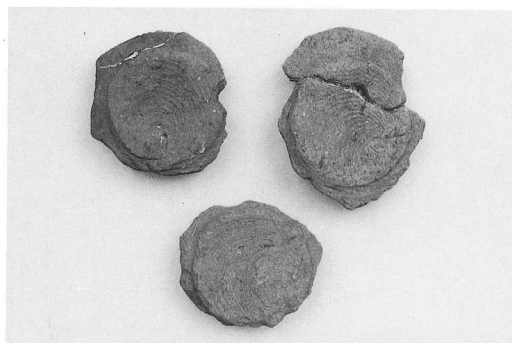
西曲地区 T 6 出土



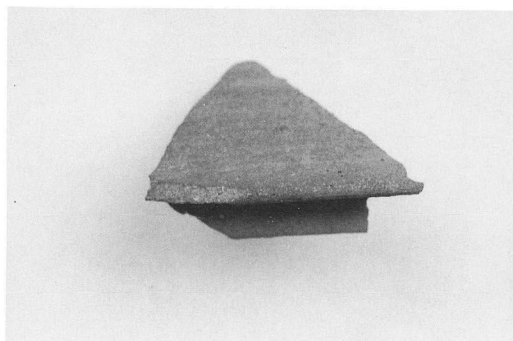
西曲地区 T19 出土



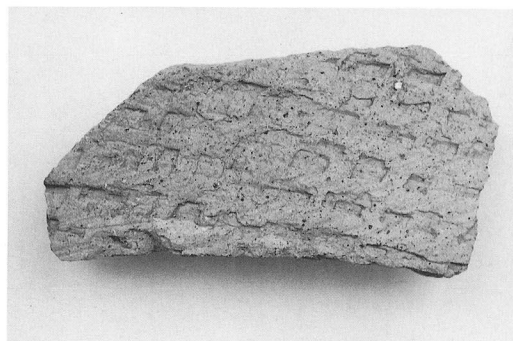
北尾地区 T 1 出土



北尾地区 T 2 出土



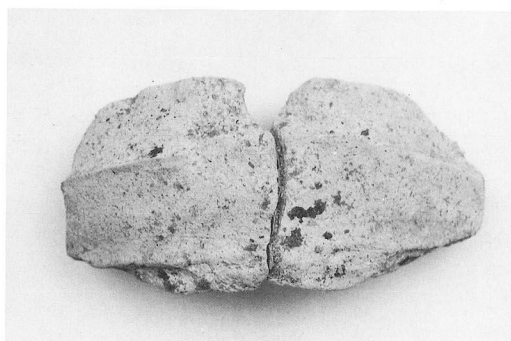
北尾地区 T 1 出土



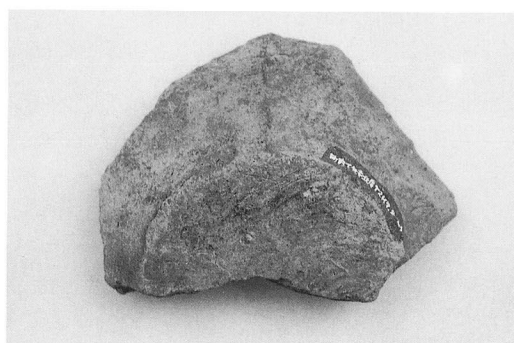
北尾地区 T 12 出土



北尾地区 T 2 出土



北尾地区 T 21 出土



北尾地区 T 2 出土



農免予定地区 T 3 出土

1996（平成8）年3月印刷

1996（平成8）年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書19

町内遺跡発掘調査報告書第5集

（管峯長谷遺跡・苅山遺跡・北尾23号墳）

編集 鳥取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 鳥取県倉吉市見日町352

製本 優成印刷有限会社